

# 山口県畜産共進会 長門大津農協”7年連続”の団体優勝

山口県畜産共進会・第47回  
和牛共進会が10月31日、県農  
業試験場で盛大に開催されま  
した。

今年の県共進会には、本町  
から枝肉及び育成牛合わせて  
18頭の牛が出品され、長門大  
津農業協同組合の7年連続  
(旧日置農業協同組合から通  
算すると13年連続) 団体優勝  
に大いに貢献を果たしました。  
審査結果は次のとおりです。

## ▼黒毛和種の部▲

### 《枝肉区(前期)》

優等 嘉平治号

一等 上山 京子(狩 宿)

一等 嘉花平号

野中 太七(小野地)

一等 勝次郎号

上田 宣道(小野地)

一等 美平砂号

野中 太七(小野地)

二等 平石号

渡辺 一(上 城)

二等 日置国安号

藤島 武(小野地)

二等 谷高勝号

上田 宣道(小野地)

《枝肉区(後期)》

一等 徳勝栄号

野中 太七(小野地)

一等 糸晴栄号

渡辺 一(上 城)

二等 美勝平号

上田 宣道(小野地)

二等 高賢7号

上田 宣道(小野地)

二等 勝糸福号

上山 京子(狩 宿)

二等 秋藤姫号

藤島 武(小野地)

### 《若牛一区》

優等次席 ひらふくとき号※

内山 忠男(長 行)

### 《若牛二区》

優等首席 たかひらよし号

大田 有秋(上 城)

### 《若牛三区》

優等首席 くにすずたか号

羽崎 菊子(黄波戸口)

二等 くにしげすず号

谷村 義一(北 山)

### 《繁殖雌牛産肉能力区》

優等首席 とよとき12号 ※

重村 健也(川 原)

優等首席 ひらふくとき号※

内山 忠男(長 行)

(※は町有預託牛)

## 『日置牛の増頭と品質向上をめざして』

日置畜牛生産組合長 内 山 忠 男

昔は、どこの農家でも牛が飼われており、私も小さい時から牛と慣れ親しんできました。学校から帰ると、餌をやる手伝いもしました。当時の牛は役牛でしたので大変おとなしく、子供でも摩ることができました。そういう優しい牛との出会いが私を大の牛好きにした遠因であろうと思っています。

昭和三十年代の後半になり耕耘機が急速な普及をみせる

と、和牛は役牛としての役目を終え、次第に農家から姿を消していききました。こうした中、昭和四十四年に日置畜牛生産組合が設立されました。往時に比べ牛が少なくなつたとはいえ、それでも設立当初には、二〇五戸の農家で二五〇頭の牛が飼われ、子牛も生産されていました。しかしながら、その後も牛の飼養農家、頭数は減り続けました。

この減少傾向に歯止めをかけたのが、繁殖雌牛の改良と増頭を目的として、昭和五十八年に発足した町有預託牛制度です。繁殖牛農家は、この制度に大きな力を得、生産意欲をかきたてられたことは申すまでもありません。

世の流れとともに人丸市場も閉鎖され、子牛市場は小郡市場に集約されました。そこでは種雄牛で日本一と言われた島根県の「糸桜」の系統が人気を呼び、市場で最高の評価を受けていました。その時、この町有牛制度が大いに役に立ち、勝れた血統の牛を町内



▲ 山口県畜産共進会の様子

も閉鎖され、子牛市場は小郡市場に集約されました。そこでは種雄牛で日本一と言われた島根県の「糸桜」の系統が人気を呼び、市場で最高の評価を受けていました。その時、この町有牛制度が大いに役に立ち、勝れた血統の牛を町内

に入れることができました。同時に組合員一同、他産地に遅れまいと、意欲的に研修会を開き、勉強に努めてきました。昨今、牛肉の自由化によって肉用牛繁殖農家は大変厳しい競争の渦中に置かれていますが、肥育農家に買っていた、たく子牛は、産肉能力の高い血統の良い牛でないと商品力がありません。その意味におきましても、町有牛制度で入った母牛が着実に成果をあげていることを、有難く喜んでいくものです。